

競技注意事項

1. 規則について

本大会は 2016 年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 競技場使用上の注意

- 1) 当該種目出場競技者、競技役員、主催者が許可した報道関係者以外は、競技エリア、ダッグアウトへの立ち入りを禁止する。
- 2) ダッグアウト、コンコースでの練習は、事故防止のため厳禁とする。
- 3) 日産スタジアム及び新横浜公園におけるテントの設営は厳禁とする。
- 4) コンコース、リング通路での自動二輪車、自転車等の車両での移動は厳禁とする。
- 5) 更衣室は指定された場所を厳守して使用し、荷物は各大学が責任を持って管理すること。また、貴重品類は各自で保管し、万一のことがあっても主催者が責任を負うことはない。
- 6) 更衣室は各日、使用した大学が使用後清掃すること。
- 7) 競技場内におけるテープ等での貼り付けは一切禁止する。
- 8) 主催者の許可なく競技場内の全ての電源の使用を禁止する。
- 9) フィールド競技の練習は競技役員の指示に従い、競技開始前に各々の競技場所にて行うこと。
- 10) グラウンド及び練習場では、競技場保護のため水以外の飲料の持ち込みは厳禁とする。
- 11) 202 室でのトレーナー活動は、事前に大会本部の許可を受けた参加校に限る。また、更衣室でのトレーナー活動は一切禁止する。
- 12) 練習は日産フィールド小机、雨天走路（雨天時のみ使用可）、投てき練習場を利用し、競技役員の指示には必ず従うこと。なお、練習場の詳細については、練習場注意事項を参照すること。

3. 競技者の招集について

- 1) 招集所はマラソングート(諸室図参照)に設置する。
- 2) 競技者の競技エリアへの入場は競技役員の指示による。
- 3) 各種目の招集開始・完了時刻は競技日程記載の通りとし、招集開始時刻に競技者係から競技者本人が点呼を受ける。
- 4) 招集の際には、ナンバーカード・商標のチェックをする。また、トラック種目出場者は腰ナンバー標識(2枚)を受け取ること。
- 5) 競技者はビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技エリア内に持ち込んではいならない。
- 6) 代理人による点呼は認めない。ただし、2 種目以上を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ本人または代理人が「重複出場者届」(招集所に用意)を、**招集を受けることができない種目の招集開始時刻までに**、競技者係(招集所)に提出すること。
- 7) 招集完了時刻に遅れると、当該種目を棄権したものとして処理するので注意すること。
- 8) リレー種目は、ラウンドごとにオーダー変更の有無にかかわらず、その都度オーダー用紙(招集所に用意)に記入して、**当該種目第 1 組の招集完了時刻 1 時間前までに競技者係(招集所)に提出すること。**
- 9) 棒高跳の練習は競技実施場所で競技開始時刻 1 時間 40 分前から行うことができる。また棒高跳の招集は競技実施場所にて行う。
- 10) 混成種目の招集時刻については 8. 競技についての 6) を参照すること。

4. ナンバーカードについて

- 1) ナンバーカードは 1 名につき 2 枚配付する。そのままの大きさと胸と背に確実につけること。ただし、跳躍種目出場者は胸、または背だけでもよい。
- 2) すべてのナンバーカードは折り曲げたりしてはいならない。
- 3) トラック種目出場者は、競技者係(招集所)が配付する写真判定用腰ナンバー標識(競技終了の度に回収)を両腰の上部、やや後ろにつけること。なお、10000mW、ハーフマラソンにおいては、周回の確認のため、トランスポンダー付きの腰ナンバー標識を使用する。トランスポンダー付きの腰ナンバー標識は左腰につけ、通常の腰ナンバー標識は右腰につけること。
- 4) 5000m、10000m、10000mW、ハーフマラソン、4×400mR 出場者には、招集所にてレース用特別ナンバー

カードを配付する。当該種目第 1 組の招集完了時刻 1 時間前までに、招集所へ受け取りに来ること。また、確認のため事前に配付したナンバーカードを必ず持参すること。十種競技 1500m、七種競技 800m ではスタート前に特別ナンバーカードを配付する。なお、七種競技 800m は最終組のみ特別ナンバーカードを配付する。

- 5) ナンバーカードの地色、数字の色は次表の通りとする。

部門・種目	ナンバーカード
● 男子 1 部	オレンジ地×黒数字
● 男子 2 部・3 部	青地×黒数字
● 女子 1 部・2 部 ● 七種競技 800m	ピンク地×黒数字
● 5000m・10000m ● ハーフマラソン（男子 1 部） ● 10000mW（男子 1 部） ● 4×400mR	黄地×黒数字
● ハーフマラソン（男子 2 部・3 部） ● 10000mW（男子 2 部・3 部、女子 1 部・2 部） ● 十種競技 1500m	白地×黒数字

5. 棄権について

エントリー後、病気または事故等により、やむなく棄権する場合は棄権届(大会本部指定の用紙を招集所に用意)に必要事項を記入、押印し競技者係(招集所)に提出すること。ただし、5 月 18 日(水)の代表者会議にて棄権が承認された場合は提出しなくてよい。

6. 競技の抽選・番組編成

- トラック種目のレーン順・フィールド種目の試技順は、プログラム記載通りとする。
- 予選・準決勝の組み合わせにおいて、成績に基づく順列で同じ組に同一大学所属の競技者が複数入る場合は、ランキングに大きな変動を及ぼさない範囲で他大学所属の競技者と差し替えて、異なる組に入れるよう配慮する。また、準決勝以降のレーン順は主催者が公平に抽選する。
- タイムによる次ラウンドへの進出者(チーム)を決定する時に、最終枠に同記録(0.001 秒単位)がありレーンが不足する場合は、当該競技者もしくはその委任を受けた代理人により抽選を行い、進出者(チーム)を決定する。

7. 用器具について

- 競技に使用する用器具(投てき物・棒高跳用ポールを除く)は、すべて主催者が用意したものを使わなければならない。
- 走高跳・棒高跳の練習に関しては主催者が用意するゴム製バーを使用して練習すること。
- 投てき物に関して、持ち込みを希望する場合は、招集完了時刻 1 時間 30 分前から 1 時間前までに用器具庫(マラソングート内)にて公式計測員による検査を受け、使用することができる。なお、個人所有のものは、競技場の備品としての扱いとなるので、他の競技者と共用になる。また、破損等については、持ち込み者個人の責任とする。持ち込みの投てき物は競技終了後、用器具庫(マラソングート内)にて返却する。

8. 競技について

- 新横浜公園は遊水池のため、大雨により日産スタジアム付設ハーフマラソンコース及び付帯投てき場に浸水した場合には、ハーフマラソン、ハンマー投を中止する場合がある。なお、中止の判断は競技開始 3 時間前を目処に判断する。
- トラック競技について
 - 計時はすべて電気計時(0.01 秒)を用いて行う。
 - 5000m 以上の種目では、バックストレートに給水所を設置し、水及びスポンジを用意する。給水後のコップ、スポンジについては他の出場者の妨害となるような捨て方は厳禁とする。
- 跳躍競技について

① 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする（ただし、天候等の状況により変更することもある）。

走高跳		1	2	3	4	以後、最後の1人になり、優勝者が決まるまでは3cm刻みとする				
	男子1部	2.00	2.05	2.10	2.13					
	男子2部・3部	1.95	2.00	2.03	2.06					
	女子1部・2部	1.60	1.65	1.70	1.73					
棒高跳		1	2	3	4	5	6	7	8	以後、最後の1人になり、優勝者が決まるまでは5cm刻みとする
	男子1部	4.60	4.70	4.80	4.90	5.00	5.10	5.15	5.20	
	男子2部・3部	4.20	4.30	4.40	4.50	4.60	4.70	4.80	4.85	
	女子1部・2部	2.90	3.10	3.30	3.50	3.60	3.70	3.75	3.80	

※練習の高さは競技場所にて複数提示され、競技者はその中から選択する。

②三段跳の踏切板の位置は、砂場の近いほうの端から男子13m、女子10mとする。

③練習跳躍を除き、踏み切り位置を当該競技者に示さないこととする。

4) 投てき競技について

やり投は風向きにかかわらず男女全部門Bゾーンから行う。

5) ハーフマラソンについて

ハーフマラソンにおいて、周回コースに入ってからその途中で先頭より1周回以上遅れた競技者、または1時間4分を経過してなお残り1周に達しない競技者はレースを中止させる。先頭とは当該競技者と同一時刻にスタートした者を指し、周回遅れは周回コース離脱点で判定するものとする。ただし、先頭から30番目までの競技者は周回遅れになっても失格とはしない。

6) 混成競技について

① 招集は1日目、2日目の最初の競技種目でのみ招集所で行う。招集時刻は競技開始時刻の30分前に開始し、20分前に完了とする。ただし、七種競技2日目の走幅跳は50分前に開始し、40分前に完了とする。なお、以後の招集は行わない。競技者は次の種目からは混成競技者控室に待機し、混成競技係の指示を受けること。

② 混成競技者控室は204室に設置する。

③ 混成競技者控室への付添、コーチ等の出入りは認めない。

④ 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は次表の通りとする（ただし、天候等の状況により変更することもある）。

		1	2	3	4	5	6	7	
走高跳	男子	1.60	1.65	1.70	1.75	1.80	1.85	1.90	以後、3cm刻み
	女子	1.40	1.45	1.50	1.55	1.60	1.63	1.66	
棒高跳	男子	2.70	3.00	3.30	3.60	3.80	4.00	4.10	以後、10cm刻み

※練習の高さは競技場所にて複数提示され、競技者はその中から選択する。

7) 助力について

① 当該競技に関係するしないにかかわらず、競技役員がある競技者に対して他競技者よりも有益となるような助言またはその他の支援を提供することは、当該競技者への助力とみなす。

② 周回種目において、周回遅れか、周回遅れになりそうな選手に競技者がペースメーカーとして競技をした場合、または先行する競技者が周回遅れの競技者のペースメーカーとして競技をした場合、両者を失格として扱う。

③ フィールド種目に出場している選手に対して競技エリア外(スタンド)にいる者が録画した映像を見せることは助力にはならないが、競技エリア外(スタンド)から見せることに限定され、録画した機材(ビデオ装置・携帯電話等)を競技エリアにいる競技者が手に持った場合は助力とみなす。

9. 表彰について

- 1) 男子1部・2部・3部、女子1部・2部の総合優勝校、男子1部・2部、女子1部のトラック、フィールド優勝校、男子1部・女子1部の多種目優勝校を表彰する。すべての競技終了後、本大会最優秀競技者を男子1部・2部、女子1部より各1名選出し、表彰する。
- 2) 男子1部・2部、女子1部の各種目3位までに入賞した競技者は、競技終了後に表彰を行うので、表彰控え場所に待機し、式典表彰係の指示に従うこと。
- 3) 男子1部・2部、女子1部の各種目4位から8位までに入賞した競技者は、賞状を授与するので、大会期間中に表彰控室で賞状を受け取ること。
- 4) 表彰を受ける際は、上は各校の公式ユニフォーム、下は公式ジャージを着用すること。また、ナンバーカードも着用すること。
- 5) 代理表彰は一切認めず、不在の場合は空席として表彰を行う。

10. 対校得点及び順位

- 1) 対校得点は、男子1部・2部、女子1部は各種目1位8点から8位1点まで1点刻みとする。同順位により、対校得点を割る場合には小数計算(ただし、同順位が小数計算で算出できない場合は分数計算とする)を行う。その計算は記録・情報処理員が行う。
- 2) 優勝校は最得多点校1校とする。最得多点校が2校以上ある場合は、各競技種目で上位入賞者の多い順に決定する。これで決定しない場合は、4×400mRの順位で決定する。
- 3) 上記2)によって優勝校が決定しない場合は本連盟評議員会の諮問を経て、本連盟幹事会が決定する。
- 4) 2位以下の順位は得点順とし、同得点の場合は、2)に準じて決定する。
- 5) 男子1部・2部の入れ替えについては、2部優勝校と2位校が次年度1部に昇格する。また1部においては下位の2校が2部に降格する。また1部最下位校が無得点で3校以上となった場合は、その全大学が2部に降格し、同数の2部上位校が1部に昇格する。また、1部最下位校が同得点で3校以上が並び、2)によっても順位がつかない場合は抽選により2校が2部に降格し、同数の2部上位校が1部に昇格する。

11. 男子3部、女子2部について

- 1) 番組編成について
男子3部は同2部、女子2部は同1部の予選の番組編成に組み入れ、タイムレース決勝とする。ただし、レーンを使用するトラック種目において、同一種目に3名以上の申し込みがあった場合は、男子3部、女子2部のみで1つの組を編成することがある。フィールド種目の試技順については、男子2部、女子1部より後とする。
- 2) 競技について
 - ① フィールド競技について
走幅跳、三段跳、投てき種目については、前半の3回の試技で順位を決定する。
走高跳、棒高跳については、男子2部、女子1部と同様の試技回数とする。
 - ② 混成競技について
フィールド種目の試技順については、男子2部、女子1部より前とする。
- 3) 表彰について
各種目3位までに入賞した競技者は、賞状を授与するので、大会期間中に表彰控室で賞状を受け取ること。なお、種目別表彰は行わない。
- 4) 対校得点及び順位について
 - ① 対校得点は、各種目1位3点、2位2点、3位1点とする。
 - ② 総合優勝校の決め方については10. 対校得点及び順位と同様とする。
 - ③ 男子3部及び女子2部の入れ替えは行わない。

12. 結果発表と抗議について

- 1) 各種目の結果の正式発表は電光掲示板で行う。
- 2) 競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表されてから30分以内(同一日に次のラウンドがある場合は15分以内)に、担当総務員(大会本部に常駐)を通じて口頭で審判長になされなければならない。時間内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものと見なす。抗議に対して審判長は速やかに裁定を行う。その裁定を不服とし、さらに抗議をする場合は、上訴申立書(大会本部に用意)に必要事項を記入し、預託金10,000

円を添えて上訴することができる。この預託金は、抗議が受け入れられなかった場合は没収される。
この間の事務的処理は担当総務員が行い、抗議者は大会本部で待機すること。なお、抗議受付窓口は大会本部（2F 215 室）に設置する。

13. ドーピング・コントロール・テスト実施について

1) ドーピングコントロール

国際陸上競技連盟ドーピング防止規則もしくは日本ドーピング防止規程に基づいて行われる。尚、本大会の前もしくは後のドーピング検査では、尿又は血液（或いは両方）の採取が行われる。該当者は指示に従って検査を受けること。その際、**顔写真付きの本人確認書類が必要となるので、顔写真のついた学生証、運転免許証、顔写真が鮮明なパスポートコピーなどを携帯すること。**

2) TUE 申請

禁止表国際基準で定められる禁止物質・禁止方法を病気の治療目的で使わざるを得ない競技者は“治療目的の使用に係る除外措置（TUE）”の申請を行わなければならない。詳細については、日本陸上競技連盟医事委員会のウェブサイト（<http://www.jaaf.or.jp/medical/index.html>）、又は日本アンチ・ドーピング機構ウェブサイト（<http://www.playtruejapan.org/>）を確認すること。

3) 未成年競技者（平成 28 年 5 月 19 日（木）時点で 20 歳未満）が競技会に参加する際、親権者からドーピング検査に関する同意書を提出してもらう必要がある。本大会に参加する未成年競技者は、未成年者同意書（本連盟ウェブサイトに掲載）を熟読し、本人及び親権者が署名、捺印の上、同意書原本を携帯すること。未成年競技者はドーピング検査に指名された時に、原本をドーピングコントロールステーションにて、NFR（大会医事代表）に提出すること。なお、提出は未成年時に 1 回のみで、同意書の提出後に再びドーピング検査に指名された場合は、すでに原本を提出済みであることを NFR に申し出ればよい。会場において、原本の提出がなくても検査は行うが、検査後 7 日以内に日本陸上競技連盟事務局に原本を提出すること。

14. 商標等について

競技者が競技エリアに商品名のついた衣類、バックなどを持ち込む場合は、「競技会における広告および展示物に関する規程」を遵守すること。基準をこえる商標や競技役員から指導・指摘された場合は、必ずテープ等を貼って隠すこと。

15. 衣類の管理について

- 1) トラック種目出場者の荷物運搬用としてビニール袋を主催者で用意する。氏名、大学名、ナンバーを事前に記入すること。
- 2) スタート前に脱衣した衣類等はビニール袋に入れ競技役員が指示した場所に置くこと。これらの衣類は、ただちにフィニッシュライン付近に運ばれるので、フィニッシュ後各自で受け取り退場すること。

16. 緊急車両・応急処置の手配について

- 1) 救急車などの緊急車両を手配する事態が起こった場合、一刻を争う事態でない限り大会本部および競技場の許可なく手配をしないこと。手配する場合は、競技場より車両の手配を行うので、詳細を含め大会本部に連絡すること。
- 2) 競技中の事故等による身体の故障の場合、医師が応急処置を行うが、事故の結果について主催者は一切責任を負わないものとする。また、治療費等は本人負担とする。ただし、2016 年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。

17. 応援について

- 1) メーンスタンドでの大学を明示するもの（部旗、横断幕、幟等）の使用・掲出は厳禁とする。集団応援場所では、横断幕を除き手持ちに限り使用を許可する。テープ等での貼り付けは一切禁止する。
- 2) 集団応援は、事前に定めた各大学指定場所でのみ行うこと。その他の場所での集団応援は厳禁とする。
- 3) 横断幕は、事前に定めた各大学指定場所に 1 枚に限り掲出を許可する。その際は、必ず紐を使用し、テープ等の使用は禁止する。1 日ごとに取り外し、各大学で責任を持って保管すること。
- 4) 拡声器・鳴り物等による応援は禁止する。

18. その他

- 1) 2016 年度の日本陸上競技連盟競技規則修改正点について特に注意すること。
- 2) トラック種目における不正スタートは 1 回で失格とする。混成競技については 2 回目以降の不正スタートは誰であろうと失格とする。
- 3) サークルを使用しての投てき練習は 1 人 1 分以内とする。
- 4) 競技運営上、多少の競技日程の変更をする場合がある。
- 5) 競技エリア内での競技者への付添は一切認めない。
- 6) 式典について
 - ・ 開・閉会式に参加する各大学の旗手、選手(閉会式のみ)は以下の通りに集合し、式典担当者の指示に従うこと。
 - ・ 開会式(19 日 8 : 45 集合) マラソングート(100m スタート付近)
 - ・ 閉会式(22 日 17 : 15 集合) マラソングート・1 ゲート(該当大学は代表者会議で連絡する)
- 7) 入場規制について

以下の区域に立ち入る者は、指定の ID カードを所持していなければならない。競技者は必ず ID カードをつけ、ナンバーカードでの規制エリア内への入場は認めない。

規制エリア	入場可能 ID (いずれか 1 つで可)
グラウンド・ダッグアウト 招集所・ミックスゾーン	競技役員・選手
日産フィールド小机・雨天走路 投てき練習場・各諸室	競技役員・チームスタッフ・選手

- 8) 盗難・紛失について
主催者で預かった物品については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない(遺失物等は学連控室で管理する)。
- 9) 開門と閉門時刻について

	(開 門)	(閉 門)
1 日目<5 月 19 日(木)>	7 : 3 0	1 9 : 3 0
2 日目<5 月 20 日(金)>	7 : 3 0	1 9 : 3 0
3 日目<5 月 21 日(土)>	7 : 3 0	1 9 : 0 0
4 日目<5 月 22 日(日)>	7 : 0 0	1 9 : 0 0

※開・閉門時刻は厳守のこと。

- 10) 荷物の搬出入について
各大学車両の競技場構内への進入は禁止する。今大会は荷物搬出入券の配付は行わないので、各校新横浜公園内の駐車場を利用すること。なお、新横浜公園は遊水池のため、夜間の留め置きは厳禁とする。
- 11) 競技中に不測の事態が発生した場合は大会本部の指示に従うこと。その他、不明な点は大会本部に問い合わせること。

関東学生陸上競技連盟